

<エントリーシート> ※事務局記入欄 No. : D - 3	部門 先導的プログラム実践部門	学校名・氏名 鳴門教育大学 教職大学院
	活動名 教員研修単位化への取組み 教員育成指標を踏まえた研修の開発	

課題の設定：

課題 1：育成指標を踏まえた研修の必要性：本学は、徳島県教育委員会、教育センターとさらに連携を深めて、教員育成指標の作成に取り組んだ。一方で、その指標を踏まえて、徳島県の主幹教諭・指導教諭研を、より体系的かつ効果的なものにしていく必要があると考えた。

課題 2：研修の単位化：教育委員会と教職大学院がより積極的に関わり、養成・採用・研修の一体化に関する具体的プログラムおよびシステムの構築が必要である。

- 方針・計画：**
- ① 「教員の資質向上のための研修プログラム開発事業推進協議会」による知見の交換・共有
 「教員の資質向上のための研修プログラム開発事業推進協議会」に四国地区の教職大学院、教員養成系学部の教員に参加を依頼し、幅広い知見に基づく研修プログラムの評価、改善の方向性を見いだす。
 - ② 研修を単位化する際の必要条件等について、調査検討を行う。
 - ③ 主幹教諭・指導教諭を対象とした、より体系的かつ効果的な研修プログラムを開発する。
 - ④ 上記①～③を通して、主幹教諭・指導教諭を対象とした、より体系的かつ効果的な研修プログラムを開発し、この研修を教職大学院の授業として位置づけ研修の単位化を行う。

- 活動内容：**
- ① 主幹・指導教諭が「授業」「他の教員に対するコーチング」「学校組織マネジメント」を知識として理解するだけでなく、これを実践し、教員の組織化および問題解決を実現させる。対象は、徳島県の年目の主幹教諭および、指導教諭。実施者は鳴門教育大学。(図1, 2, 3, 4)
 - ② 受講者は、研修レポート(図5)を作成し、鳴門教育大学教職大学院の教員に提出する。鳴門教育大学教職大学院の教員は、研修レポートを添削し、受講者に返送する。また、受講者は、講義、ラウンドテーブルの合間に、研修レポートに基づき、選択したテーマについての実践を展開する。

- 活動の成果：**
- ① 研修全体に大学教員が関わることにより、主幹教諭、指導教諭研修の満足度および、実践への寄与度に関する受講者の評価は高いものとなった。(表1)
 - ② 受講者に対する研修レポートの添削を大学教員が行うことにより、適切な評価を行うことができた。
 - ③ 「教員の資質向上のための研修プログラム開発事業推進協議会」により、各大学との連携が促進した。
 - ④ 研修の単位化に向けての条件や制度にかかる研究を進めることができた。

- ピールポイント(アイディアや工夫)：**
- ① 県教育委員会の主催の教員対象研修講座に教職大学院が積極的に関わることにより両者の持つ機能をフルに発揮した研修を行うことができた。
 - ② 教育委員会と本学教職大学院が27年度から取り組んでいる研修である。これまでの成果・課題を基に改善を行ってきたことにより、相互理解がさらに深まった。
 - ③ 平成30年度教職大学院のカリキュラムこの研修を授業として位置づけることができた。今後のさらなる研修の単位化に向けての試金石とすることができた。

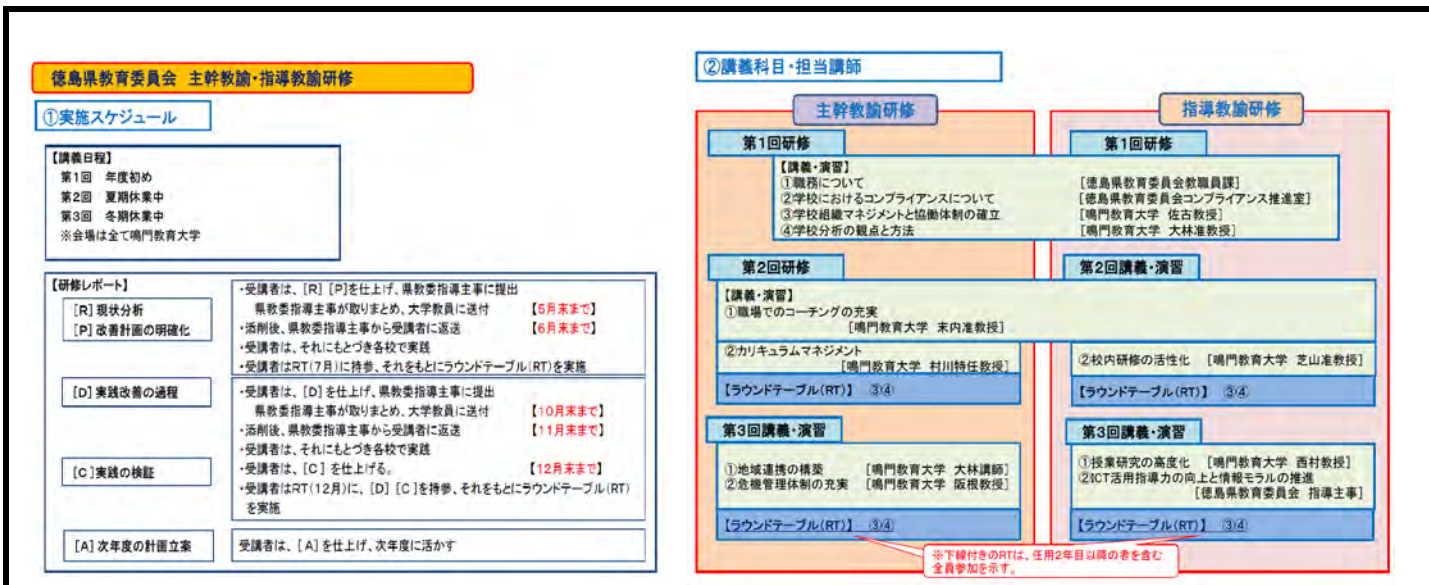


図1 主幹・指導教諭研修プログラムのスケジュール

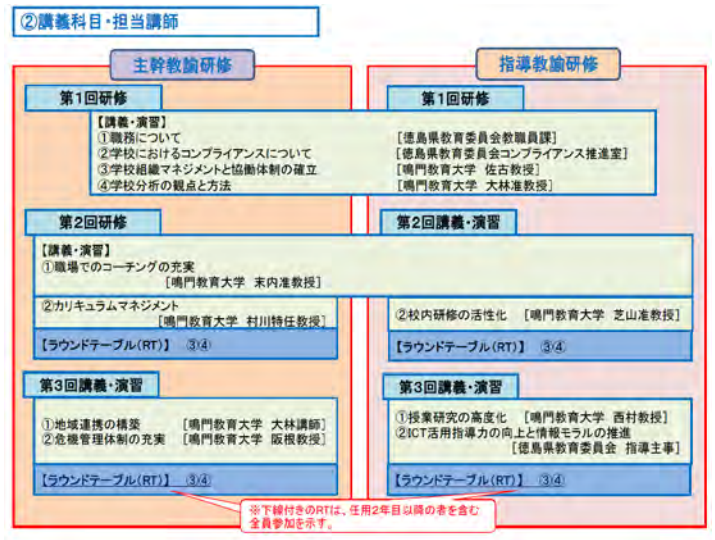


図2 講義科目・担当講師

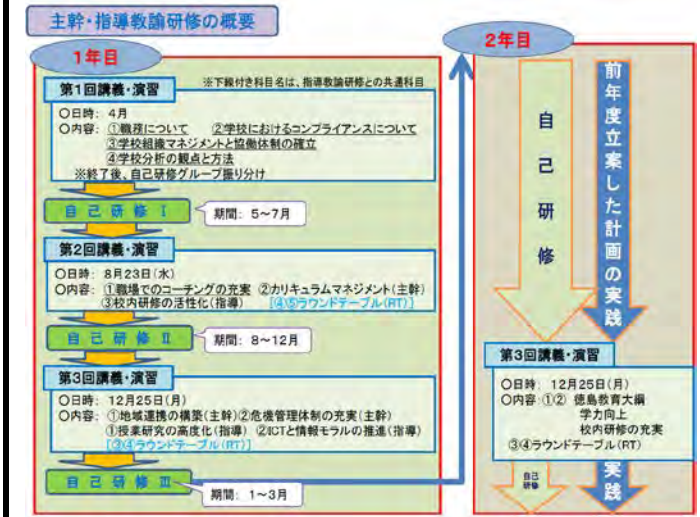


図3 研修の概要



図4 自己研修の流れ

主幹教諭研修	指導教諭研修
自校の課題の改善に向けて選択した研修テーマ 【現状分析】 R: 学校の現状を、具体的に(データに基づきながら)分析しましょう。 1 児童生徒のよさと課題 2 教育活動のよさと課題 3 組織体制、運営面でのよさと課題 4 その他、特定すべき事項(自校ならではのよさと課題) 【改善計画の明確化】 P: 解決すべき事項を明確にして、改善のためのプランニングを行いましょう。 1 選択した研修テーマについて、教職員が取り組むべき実践はどのようなものか。 2 特に、主幹教諭として取り組みたいことは何か。3 2を進めていく上で、特に留意することは何か。 【実践改善の過程】 D: 実践改善の過程を確認しましょう。 1 教職員が取り組むべき教育活動はどのように改善・実行されているか。 2 主幹教諭として何にどのように取り組んでいるか。 【実践の検証】 C: 取組の実証を行いましょう。 1 教職員の実践改善は、どの程度進展したか。 2 指導教諭としての取組は、計画通り進んだか。 【次年度の計画】 A: 今年度振り返り通った課題を整理し、来年度に向けて、見直しを促す計画を立てましょう。 1 次年度に向けて解決すべき課題は何か。 2 そのために教職員が取り組むべき教育活動は、どのようなものか。 3 主幹教諭として、どのように取り組むべきか。	自校の課題の改善に向けて選択した研修テーマ 【現状分析】 R: 学校の現状を、具体的に(データに基づきながら)分析しましょう。 1 児童生徒のよさと課題 2 教育活動のよさと課題 3 組織体制、運営面でのよさと課題 4 その他、特定すべき事項(自校ならではのよさと課題) 【改善計画の明確化】 P: 解決すべき事項を明確にして、改善のためのプランニングを行いましょう。 1 選択した研修テーマについて、教職員が取り組むべき実践はどのようなものか。 2 特に、指導教諭として取り組みたいことは何か。 3 2を進めていく上で、特に留意することは何か。 【実践改善の過程】 D: 実践改善の過程を確認しましょう。 1 教職員が取り組むべき教育活動はどのように改善・実行されているか。 2 指導教諭として何にどのように取り組んでいるか。 【実践の検証】 C: 取組の実証を行いましょう。 1 教職員の実践改善は、どの程度進展したか。 2 指導教諭としての取組は、計画通り進んだか。 【次年度の計画】 A: 今年度振り返り通った課題を整理し、来年度に向けて、見直しを促す計画を立てましょう。 1 次年度に向けて解決すべき課題は何か。 2 そのために教職員が取り組むべき教育活動は、どのようなものか。 3 指導教諭として、どのように取り組むべきか。

図5 レポート記載事項

表1 主幹教諭研修、指導教諭研修の満足度

平均得点	満足度	今後の実践に生かせるか
主幹教諭研修・講義	3.8	3.7
主幹教諭研修・ラウンドテーブル	3.9	3.8
指導教諭研修・講義	3.6	3.5
指導教諭研修・ラウンドテーブル	3.9	3.8

評価が高い回答の順から、4点～1点